

平和、新たな始まり

평화, 새로운 시작

2018南北首脳会談

2018 INTER-KOREAN SUMMIT

2018南北首脳会談準備委員会

www.korea.net

2018南北首脳会談

2018年4月27日（金）

板門店 平和の家

目次



2018 南北首脳会談

- | | |
|------------------------|----|
| 1. 2018南北首脳会談開催合意までの経緯 | 02 |
| 平昌冬季五輪で始まった韓半島の平和 | |
| 2. 2018南北首脳会談の意義 | 06 |
| 韓半島の平和に向けた新たな足がかり | |
| 3. 2018南北首脳会談の議題 | 07 |
| 韓半島非核化と平和の定着、南北関係発展 | |



文在寅 大統領の 韓半島政策

- | | |
|----------------------|----|
| 1. 政策ビジョンと特徴 | 08 |
| 平和最優先 | |
| 2. 文在寅大統領の韓半島政策推進の体系 | 10 |
| 共存と繁栄のための道 | |



文在寅 大統領が 夢見る平和

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 避難民の息子から南北首脳会談の主役に | 12 |
| 2. 語録で振り返る文在寅大統領の平和への旅路 | 15 |

付録

- | | |
|----------------------|----|
| 1. 南北会談の歴史 | 17 |
| 2. 2018南北首脳会談に関するQ&A | 20 |

1 2018南北首脳会談 開催合意までの経緯

平昌冬季五輪で始まった韓半島の平和

平和、
新たな
始まり
2018
南北
首脳
会談

2017年6月24日、文在寅（ムン・ジェイン）大統領は茂朱（ムジュ）で開催されたWTF世界テコンドー選手権大会で挨拶し、初めて北朝鮮に対して平昌冬季五輪参加を提案した。その後、ドイツのケルバー財団での招請演説や第72周年光復節（独立記念日）記念式典での祝賀演説、第72回国連総会での基調演説などを通じて、韓半島平和のためのメッセージを発信し続けた。

2018年1月1日、北朝鮮から最初の反応が示された。金正恩（キム・ジョンウン）国務委員長が新年の辞のなかで、平昌冬季五輪への代表団派遣と南北関係改善の意志を表明した。そして1月9日、2年ぶりに開かれた南北高位級会談とその後の実務会談で、北朝鮮の平昌冬季五輪参加と南北合同入場、女子アイスホッケー南北合同チームの結成が合意された。北朝鮮から500人が平昌を訪れたほか、分断以来初めて、北朝鮮の憲法上の国家元首である金永南（キム・ヨンナム）最高人民会議常任委員長が韓国を訪問した。同行した金与正（キム・ヨジョン）党中央委員会第1副部長は、文在寅大統領を平壤に招待する内容の金正恩委員長からの親書を文在寅大統領に手渡した。文在寅大統領は答礼訪問の形で対北朝鮮特別使節団を平壤に送り、南北は4月末の南北首脳会談開催に合意した。

対北朝鮮特使団（鄭義溶（チョン・ウィヨン）

首席特使）の訪朝結果

（2018年3月6日）

- ① 南と北は、4月末に板門店の「平和の家」で3回目の南北首脳会談を開催することにし、そのために具体的な実務協議を進めることにした。
- ② 南北は、軍事的緊張緩和と緊密な協議のために首脳間のホットラインを設置し、3回目の南北首脳会談以前に最初の通話を行うことにした。
- ③ 北側は、韓半島非核化に向けた意志を示し、北朝鮮に対する軍事的な脅威が解消され、北朝鮮の体制の安全が保証されるならば、核を保有する理由がないという点を明確にした。
- ④ 北側は非核化問題に関する協議や米朝関係の正常化のために米国と虚心坦懐な対話をする用意があることを表明した。
- ⑤ 対話が続く間、北側は追加の核実験および弾道ミサイルの試験発射など戦略挑発を再開しないことを明確にした。同時に北側は、核兵器はもちろん通常兵器を南側に向けて使用しないことを確約した。
- ⑥ 北側は、平昌冬季五輪によって醸成された南北間の和解と協力という良い雰囲気を持続させるため、南側のテコンドー演武団と芸術団の平壤訪問を招請した。

「平昌から平和まで」の歩み



2017. 6. 24

文在寅大統領が、茂朱WTF世界テコンドー選手権大会の祝辞で、北朝鮮の平昌冬季五輪参加を初めて提案

2017. 7. 6

文在寅大統領が、ドイツのケルバー財団での招請演説で、韓半島の平和に向けた構想(ベルリン構想)を発表

2017. 8. 15

文在寅大統領が、第72周年光復節の祝辞で、南北が手を取り平昌冬季五輪を平和の五輪にしなければならないと強調

2017. 9. 21

文在寅大統領が、国連総会の基調講演で、北朝鮮の核問題の平和的解決を強調し、北朝鮮の平昌冬季五輪参加を改めて提案

2018. 1. 1

北朝鮮の金正恩国務委員長が新年の辞で、平昌冬季五輪への代表団派遣や対話の意向を表明

2018. 1. 1

大統領府報道官が、「北朝鮮からの南北当局者協議の提案を歓迎する」と表明

2018. 1. 2

韓国統一部長官が、「南北当局会談の開催」を北朝鮮に提案

2018. 1. 3

板門店の連絡チャンネルを再開

2018. 1. 4

韓米が、韓米合同軍事演習を延期し、五輪終了後に実施することで合意

2018. 1. 5

北朝鮮が、韓国からの会談の提案を受諾

2018. 1. 9

南北高位級会談の開催および共同報道文の採択(板門店の韓国側施設「平和の家」)

2018. 1. 15

北朝鮮の芸術団派遣のため、南北の実務者が接触(板門店の北朝鮮側施設「統一閣」)

2018. 1. 17

南北高位級会談実務会談が開催され、平昌五輪参加について議論(板門店の韓国側施設「平和の家」)

2018. 1. 20

IOCが北朝鮮の平昌冬季五輪参加を最終的に承認

2018. 1. 31	馬息嶺(マシンニョン)スキー場で南北のスキー選手が合同訓練を実施
2018. 1. 25 ~ 2. 7	北朝鮮の選手団、芸術団、テコンドー演武団、記者団が韓国を訪問
2018. 2. 9	北朝鮮の金永南(キム・ヨンナム)最高人民会議常任委員長を団長とする高位級代表団が韓国を訪問
2018. 2. 9	平昌冬季五輪の開会式で、南北選手団が合同入場行進
2018. 2. 10	文在寅大統領が北朝鮮の高位級代表団と面会し、文大統領を平壤に招待する内容の金正恩委員長からの親書を金与正党中央委員会第1副部長から手渡される
2018. 2. 10 / 12 / 14	女性アイスホッケー南北合同チームの試合
2018. 2. 11	北朝鮮の三池淵(サムジヨン)管弦楽団と少女時代のソヒョンが合同公演実施。北朝鮮の高位級代表団が帰還
2018. 2. 25	北朝鮮の金英哲(キム・ヨン Chol)朝鮮労働党中央委員会副委員長を団長とする高位級代表団が韓国を訪問
2018. 2. 25	文在寅大統領が北朝鮮の高位級代表団と面会。北朝鮮が「米朝対話の用意」を表明。平昌五輪が閉幕
2018. 2. 26	北朝鮮の選手団、応援団、記者団など299人が帰還
2018. 2. 27	北朝鮮の高位級代表団が帰還。平昌冬季パラリンピックをめぐる実務会談を開催
2018. 3. 5	対北朝鮮特別使節団(主席特使：鄭義溶(チョン・ウィヨン)国家安保室長)が平壤訪問。金正恩委員長と面会
2018. 3. 6	対北朝鮮特別使節団が4月末に南北首脳会談を板門店で開催することを発表
2018. 3. 7	平昌冬季パラリンピックに出場する北朝鮮の選手団が韓国を訪問
2018. 3. 9	鄭義溶国家安保室長が5月中の米朝首脳会談の開催を発表
2018. 3. 15	平昌冬季パラリンピックに出場した北朝鮮の選手団が帰還
2018. 3. 16	南北首脳会談準備委員会の第1回会議を開催
2018. 3. 21	南北首脳会談準備委員会の第2回会議を開催
2018. 3. 29	「2018南北首脳会談のための南北高位級会談」を開催(板門店の北朝鮮側施設「統一閣」)
2018. 3. 29	芸術団・テコンドー演武団の平壤公演先遣隊66人が訪朝(黄海の直航路を利用)
2018. 3. 30	南北首脳会談準備委員会の第3回会議を開催
2018. 3. 31	芸術団・テコンドー演武団の平壤公演出演者など120人が訪朝(黄海の直航路を利用)
2018. 4. 1	南北平和協力を祈願する韓国芸術団の公演「春が来る」および韓国テコンドー演武団の公演(平壤)
2018. 4. 2	南北テコンドー演武団の合同公演(平壤)
2018. 4. 3	南北平和協力を祈願する南北芸術団の合同公演「私たちは一つ」
2018. 4. 5	「2018南北首脳会談のための南北実務会談」を開催(板門店)
2018. 4. 11	南北首脳会談準備委員会の第5回会議を開催

今回の会談は、韓半島の安全保障が大きな危機に直面する中、北朝鮮に対して対話の場に出るよう呼び掛けてきた文在寅大統領と韓国政府の一貫した努力と、米国や周辺国など国際社会の全面的な支持が生み出した貴重な機会である。

2018南北首脳会談は、韓半島非核化と平和定着、そして南北関係の発展に向けた足がかりを築く場になる見通しだ。南北対話が長い間断絶し、関係が悪化してきたことを考えれば、南北の首脳が会って虚心坦懐に対話し、信頼を形成することもまた、今回の会談の重要な目標である。

特に、今回の南北首脳会談は、史上初めての米朝首脳会談につながるものとなる見通しである。南北首脳会談と米朝首脳会談が成功すれば、その成果は、国際社会が希望し、支持する、北朝鮮核問題の平和的解決と韓半島平和定着という、歴史的なマイルストーンとなるはずである。

板門店を分断の象徴から平和の象徴に



1973年の板門店

2000年と2007年に続き、11年ぶりに実現する2018南北首脳会談は、板門店（パンムンジョム）の韓国側施設「平和の家」で開かれ、北朝鮮の最高指導者が初めて韓国の地を踏むことになる。

ソウルから52km、平壤から147km、開城工業団地から8km離れたところにある板門店は、1951年に国際連合軍と朝鮮人民軍との休戦会談が開催されたことで、対外的に知られるようになった。1953年に停戦

協定がここで締結され、その後も軍事停戦委員会の会談が開かれた。1971年からは、南北赤十字会談の予備接触をはじめ、計360回以上の南北会談がここで開かれた。

板門店周辺は南・北・国連軍が共同で警備する共同警備区域（JSA）だが、1976年に北朝鮮兵が斧で米兵を殺害した「ボブラ事件」が起きてからは、区域内にも軍事境界線を引いて南北の人員を隔離している。「自由の家」と「板門閣」の間にある高さ5cm、幅50cmのコンクリートの帯が軍事境界線で、分断の悲劇を物語る象徴となっている。

南北間の合意により板門店が2018年の南北首脳会談の開催場所として決まり、分断の歴史が始まったこの場所で平和の芽生えが実現するのだろうか、世界の注目が集まっている。

3 2018南北首脳会談の議題

韓半島非核化と平和の定着、南北関係発展

韓国政府は、今回の首脳会談で、「韓半島非核化」「韓半島平和定着」「南北関係発展」について包括的に議論する予定である。政府は、この3つの議題をバランスよく取り上げるとともに、南北間の合意を確実に履行するための方策も検討している。

まず、韓半島の非核化については、今回の南北首脳会談で北朝鮮が非核化の意志を再確認することにより、今後、北朝鮮の核問題の平和的解決に向けた実質的な進展を遂げるための土台となることが期待されている。韓国政府は、相次いで開催される予定の南北首脳会談と米朝首脳会談の成功により、北朝鮮が非核化という戦略的決断を下し、本格的な非核化措置を取るよう、最善の努力を尽くす方針である。韓半島平和定着については、南北間の軍事的緊張緩和と信頼構築措置を含め、韓半島の恒久的な平和定着に関する様々な事案が議論されるとみられる。

持続可能な南北関係の発展については、7.4南北共同声明、南北基本合意書、6.15共同宣言、10.4首脳宣言など、南北間の過去の合意を継承・発展させていくという考え方の下、対話と交流・協力、人道問題など、南北関係全般について議論することになるとみられる。

政府は、何よりも、今回の南北首脳会談が南北間、そして米朝間の信頼を回復する第一歩となるよう、全力を尽くしていく方針である。

II 文在寅 大統領の 韓半島 政策

「文在寅大統領の韓半島政策」には、大統領選挙での公約や、ベルリン構想、光復節祝辞などで表明した韓半島の未来ビジョンと方向性が盛り込まれている。

1 政策ビジョンと特徴 平和最優先

2017年11月に統一部が発刊した「文在寅の韓半島政策：平和と繁栄の韓半島」の
主な内容を抜粋・要約したものです。

「文在寅大統領の韓半島政策」は、南北と北東アジア近隣諸国、国際社会が共に「平和共存」と「共同繁栄」を実現することを目的とし、韓国が主導する長期的かつ包括的な政策である。特徴は、△平和最優先△相互尊重の精神△持続可能な南北関係追求△政策の範囲を広げ韓半島を含む北東アジア全体の繁栄志向——の4つである。

韓半島は、現在も停戦状態で、北朝鮮の核・ミサイル問題などにより、緊張と危機が続いている。平和の実現は韓半島において最も切実であり、我々が追求しなければならない最優先の価値であり、正義である。政府は、強固な安全保障を基に、平和を支え、積極的な平和構築のために努力することにより韓半島に恒久的な平和を定着させることを目指す。平和な韓半島で南北が共存していく中で、統一に向けた扉はおのずと開かれるであろう。

文在寅大統領の韓半島政策は、北朝鮮の崩壊や吸収統一、人為的統一を追求しないことを明確にしている。今後、南北が互いを尊重し、また信頼し合うことで協力関係を進め、「共に繁栄する韓半島」を目指していく。

さらに、南北関係の持続可能な発展に向けた土台を築いていく。そのため、歴代政権の対北朝鮮政策を尊重し、継承すべき部分は継承してさらに発展させていく。また、統一国民協約（国内）、南北基本協定（南北関係）、韓半島平和協定（国際関係）を締結し、南北関係の持続可能な発展に向けた制度的基盤を整備する計画である。

政策の範囲を韓半島に限定せず、北東アジア諸国や国際社会をも含める。韓半島の利益という枠組みを超え、周辺国と国際社会にとってプラスとなる協力関係を拡大していくことで、韓半島と北東アジア、ひいては世界の平和と繁栄を促進させていく。

私たちが目指しているのはただ一つ、平和です。

平和な韓半島とは、核と戦争の脅威のない韓半島のことです。南北が互いを認め、尊重し、共に繁栄する韓半島です。

我々は、すでに韓半島に平和をもたらす方法を知っています。それは『6.15共同宣言』と『10.4首脳宣言』に立ち返ることです。南北はこの2つの宣言を通じ、韓半島問題の当事者がわが民族であることを明確にし、韓半島における緊張緩和と平和定着に向けた緊密な協力を誓い合いました。経済分野をはじめとする社会の各分野における協力事業を通じ、南北が共同繁栄の道を進んでいくことを約束しました。

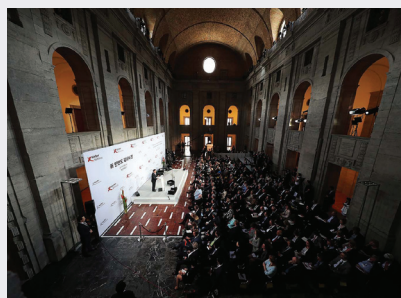
南北が相互尊重を土台として結んだこれら合意の精神は、今なお有効です。そして切実です。

南北が共に平和な韓半島を実現しようとしたその精神に立ち戻らなければなりません。

私は、この場ではっきりと申し上げます。私たちは、北朝鮮の崩壊を望みません。いかなる形での吸収統一も進めません。人為的な統一も追求しません。統一は、双方が共存共栄しながら民族共同体を回復していくプロセスです。統一は、平和が定着すれば、南北間の合意によって自然と実現するものです。

私と韓国政府が実現しようとしているのは、ただ一つ、平和です。

2017年7月6日
ドイツ・ケルバー
財団招請演説



2 文在寅大統領の韓半島政策推進の体系 共存と繁栄のための道

文在寅大統領の韓半島政策には、平和共存と共同繁栄という2大ビジョンの下に、3大目標と4大戦略、5大原則が置かれている。

文在寅の韓半島政策推進体系のイメージ

ビジョン

平和共存、共同繁栄

3大
目標

北朝鮮の
核問題の 解決と
恒久的な平和定着

持続可能な
南北関係の発展

韓半島の
新経済共同体の
実現

4大
戦略

段階的・包括的
アプローチ

南北関係改善と
北朝鮮問題
解決の並行推進

制度化による
持続可能性の
確保

互恵的
協力による
平和的統一
基盤の構築

5大
原則

- ① 韓国主導による韓半島問題の解決
- ② 強固な安全保障による平和維持
- ③ 相互尊重に基づく南北関係の発展
- ④ 国民との意思疎通と合意の重視
- ⑤ 国際社会との協力による政策推進

ビジョンと目標、そして戦略は相互に有機的につながっている。特に、「北朝鮮核問題の解決と恒久的な平和定着」「持続可能な南北関係の発展」「韓半島新経済共同体の実現」で構成された「3大目標」は、「平和と繁栄の韓半島」の将来像を示している。今回の2018南北首脳会談の意義もまた、3大目標達成に向けた土台を築くことにある。

① 北朝鮮核問題の 解決と平和定着

北朝鮮核問題を平和的に解決し、韓半島に強固な平和体制を構築することが最初の目標である。これを達成するため、自らを守る「強固な安全保障」を確保すると同時に、韓米協調など関係国との緊密なコミュニケーションと協議をもとに、北朝鮮核問題を平和的に解決するための努力を重ねていく。

また、60年以上続いてきた不安定な停戦体制を平和体制に変えることで、韓半島の平和を制度化し、恒久的に定着させていく。

② 持続可能な 南北関係の発展

7.4南北共同声明、南北基本合意書、6.15共同宣言、10.4首脳宣言など、これまでの南北間の合意を継承・発展させていく。そのために、南北間の対話を定例化し、多方面における交流・協力を再開して、南北間の信頼を回復させる。さらに、国民との積極的なコミュニケーションにより、統一問題や南北関係に関する社会的合意を形成する「統一のための約束」作りに努力する。こうした南北関係発展を基に、「南北基本協定」や韓半島平和協定などを締結し、制度に裏付けられた持続可能な南北関係を確立していく。

③ 韓半島 新経済共同体の 実現

3つ目の目標は、南北間の互恵的な経済協力を通じて共通の利益を創出し、南北が共存・共栄する経済共同体を形成することである。「韓半島新経済地図構想」をもとに「新北方政策」・「新南方政策」などを実施することにより、韓半島の枠組みを超え、米国・日本・中国・ロシア・アセアン（ASEAN）など近隣諸国との経済的な協力関係を促進させていく。これらの国々との協力を促進するため、新経済共同体構想を米国の「インド太平洋構想」、中国の「一帯一路」、ロシアの「新東方政策」など、主要国の発展戦略と緊密にリンクさせていく計画である。しかし、現在の国際社会における対北朝鮮制裁下では、北朝鮮がすぐに事業に参加するのは難しいため、まず関係国との間で可能な協力を推進させ、北朝鮮の核問題が進展を遂げたときに北朝鮮が経済関係に参加できるよう道筋をつけなければならない。南北と近隣諸国が経済協力を通じて相互依存を高めていけば、韓半島の緊張を緩和し、多国間の安全保障協力を増進させ、韓半島と北東アジアの平和と共同繁栄を促進できると考える。



文在寅 大統領が 夢見る 平和

“

私たちが追求するものは明確です。
韓半島の平和と繁栄です。
私たちの子孫は、
自由で平和な韓半島で
共同繁栄を享受しなければなりません。

”

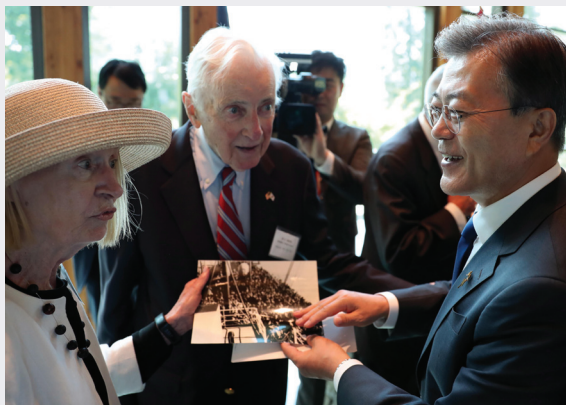
2017年9月28日
韓国軍創設69周年
「国軍の日」の記念辞の中で



平和、
新たな
始まり
2018
南北
首脳
会談

1 避難民の息子から 南北首脳会談の主役に

失郷民（シリャンミン）の息子



ロバート・ルニー元米軍提督から興南撤収作戦当時の写真を手渡される文在寅大統領 2017年6月28日

「避難するとき、父と母は2～3週間程度と考えて故郷を離れたという。そうして何の縁もない見知らぬ土地で、ろくな準備もしないまま新しい生活を始めたのだった。」

文在寅は1953年1月24日、慶尚南道（キョンサンナムド）巨済（コジェ）の農家で生まれた。両親は6.25（朝鮮戦争）のときに北朝鮮の咸鏡南道（ハムギョンナムド）興南（フンナム）から避難してきた失郷民（北朝鮮から韓国に避難したまま帰れなくなった人たち）だった。頼る人のいない土地での暮らしはつらいものだった。文在寅は貧しい子ども時代を送った。

「私はわが家が貧しいことも辛かったが、分断と戦争で父が自分の人生を失ったことがもっと胸にこたえた。」

一生涯、故郷を懐かしく思い続けた文在寅の父親は、北朝鮮からの訪問団が初めてソウルを訪れた時、誰よりも喜んだ。すぐに南北が統一され、ふるさとに帰ることができることを期待した。だが、結局、自分の両親の安否さえ分からないまま亡くなった。激変する歴史の中で、生活のよりどころを根こそぎ失った失郷民の苦しい人生を、文在寅は目の当たりにした。



母と北朝鮮に住む叔母の再会に涙ぐむ文在寅青瓦台市民社会首席秘書官 2004年7月11日

「家族がみんな亡くなる前に、母がこうして叔母と再会し、願ったことの1万分の1でも叶えることができて嬉しい。」

2004年7月、第10回南北離散家族再会行事が金剛山（クムガンサン）で開かれた。文在寅の母親は50年ぶりに北朝鮮に住む妹と再会した。北朝鮮にいる最後に残った肉親を抱きしめ、母はひたすら涙を流し続けた。会えるまでの時間は長かったが、再会の時間はあっという間に過ぎた。南北関係の硬直化により、離散家族の再会は2015年10月を最後に中断したままとなっている。

分断の最前線で



2007南北首脳会談推進委員会の第1回会議を主宰する文在寅推進委員長 2007年8月12日

「（盧武鉉政権で）秘書室長を務めたとき、最もやりがいを感じたことは、2007年10月の南北首脳会談だった。」

文在寅は、大統領秘書室長として、2007南北首脳会談推進委員長を務め、会談の準備を主導した。会談当日、当時の盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領は歩いて軍事境界線を越え、北朝鮮入りした。文在寅はソウルに残り、両首脳が議論する議題や共同声明に盛り込む内容を検討した。2007年の首脳会談の成果と経験は、後に文在寅の韓半島政策へとつながる大きな土台となった。



2018平昌冬季五輪の開会式に出席した各国の首脳 2018年2月9日

「南と北の選手たちが勝利のために互いに助け合う姿は、世界の人々の胸に平和の大きな響きとして記憶されることでしょう。」

(2018年2月9日平昌冬季五輪開会式に先立って開かれたレセプションでの歓迎の辞)

2017年5月に大統領に就任した文在寅は、「北朝鮮核問題の平和的解決」という原則のもと、北朝鮮への提案と外交努力を粘り強く行った。そして、平昌冬季五輪を契機に、ついに南北対話の端緒が開かれた。文在寅は、特使団の訪朝後、すぐに周辺4カ国に特使を派遣した。国際社会の支持と協力のなか、南北関係は再び画期的な進展に向けた転機を迎えている。

平和を夢見る

「初めて見た時にとても気に入って、蓋馬（ケマ）高原の写真を一枚買いました。ずっと壁に貼っておき、いつか平和的統一が実現したら必ず自分の足で歩いてみよう、そう決心しました。」

南北が統一されたら、真っ先に90歳を超えた母を連れて興南を訪ね、母方のルーツを探りたいと言う失郷民の息子。壮大な蓋馬高原の写真を見て、いつか自分の足で歩いてみたいと決心した青年。統一後、新しい経済システムのなかで困難に直面するかもしれない北朝鮮の人たちを無料で弁護し、人生を終えたいと話していた人権弁護士。今、文在寅大統領は、任期中に北朝鮮核問題を解決し、平和を強固なものにして、韓半島の平和に向けた新しい道を切り開きたいと夢見ている。

2 語録で振り返る 文在寅大統領の平和への旅路

「韓半島の運転手である文在寅、平和に向けた力強いドライビング」

2017



2017年6月28日

長津湖（チャンジンホ）戦闘記念碑＊
に献花した際に行った記念演説

＊ ワシントンの米海兵隊博物館に所在

「トランプ大統領と固く手を握り、進んでいきます。偉大な韓米同盟を土台に、北朝鮮の核廃棄と韓半島の平和、更には北東アジアの平和を共に実現していきます。」



2017年5月10日

大統領就任宣誓

「韓半島の平和のために東奔西走します。必要であれば、すぐにワシントンに飛んでいきます。北京にも、東京にも行き、条件が整えば平壤にも行きます。韓半島の平和定着のためなら私にできるすべてのことをします。」



2017年7月6日

ドイツ・ケルバー
財団招請演説

「南北が共に手を取り、韓半島の平和の突破口を開いて行かなければなりません。まず、簡単なことから始めようと北朝鮮に提案します。」



2017年9月22日

第72回国連総会
における基調演説

「いかなる形の吸収統一や人為的な統一も追求しません。北朝鮮が今からでも歴史の正しい側に立つ決断を下すなら、私たちは国際社会と共に北朝鮮を支援する準備ができています。」



2017年10月31日

民主平和統一諮問会議
全体会議における挨拶

「北朝鮮が平昌に向けて一歩踏み出せば、数百発のミサイルでは決して得ることのできない平和に向けた大きな前進になるでしょう。」



2017年11月7日
**韓米共同記者会見
における発言**

「我々は、北朝鮮が核・ミサイルの挑発を即刻中止して一日も早く非核化に向けた対話の場に出ることを、改めて強く求めます。北朝鮮が正しい選択をした場合、明るい未来を提供する準備ができていることも再確認しました。」



2017年12月15日
北京大学における講演

「私たちが望むのは、北朝鮮との対立や対決ではありません。北朝鮮が正しい選択をした場合、国際社会と共に明るい未来を提供することを、改めて強調します。」

2018



2018年1月10日
2018年の新年の辞

「今年が韓半島の平和元年となるよう最善を尽くします。その過程で、同盟国である米国や、中国、日本などの関係国をはじめ、国際社会とより緊密に協力していきます。」



2018年2月9日
**平昌冬季五輪開会式に
先立って開かれた
レセプションにおける歓迎の辞**

「きょう、ここ平昌では、五輪史上初の南北合同チーム、女子アイスホッケーチームが出場準備をしています。南と北の選手たちが勝利のために互いに助け合う姿は、世界の人々の胸に平和の大きな響きとして記憶されることでしょう。」



2018年3月6日
**陸軍士官学校第74期卒業
及び任官式における祝辞**

「私たちの目標は明確です。韓半島の平和と繁栄です。そして、それを支える強固な安全保障です。責任から逃れることを許されない、私と軍の使命です。」



2018年3月8日
第50回国家朝食祈禱会における祝辞

「米国をはじめとする国際社会と手をつなぎ、北朝鮮と対話し、一歩ずつ、韓半島の平和と繁栄に向けた礎を築いていきます。」

付録

1

南北会談の 歴史

南北は、長い分断の歴史の中で対立してきたが、分断の悲劇と傷を癒すための対話と交流の努力も着実に行ってきた。

相互信頼を築き、平和を実現するための南北間の対話の努力は、1970年代に始まった。2000年と2007年に行われた南北首脳会談は、南北が敵対と対立の中にあっても開催への強い意志を持って実現させた「対話の道」に打ち立てられた、巨大なマイルストーンである。

1970年代

南北は1960年代まで冷戦の影響で対話に乗り出せなかったが、1970年代に入り、国際社会に和解・協力のムードが醸成されたことで、対話の端緒を開いた。

最初の南北対話は1971年8月20日。離散家族問題の解決を目的とした赤十字会談の派遣員による接触だった。そして翌年8月から1973年7月にかけて、離散家族の住所や生死確認など5つの項目を議題に南北赤十字会談の本会談が合計7回開かれた。

1972年5月、南北の代表がソウルと平壤を行き来しながら会談を行った成果として、分断以来最初の合意文書である「7.4南北共同声明」が発表され、南北調節委員会が発足した。声明には、自主・平和・民族大団結の統一3原則をはじめ、相手を誹謗中傷しないこと、軍事衝突防止措置、ソウル-平壤常設直通電話の設置などが盛り込まれた。しかし、冷戦下での対決の構図を克服することができず、南北関係の進展にはつながらなかった。

1980年代

1980年代初頭、南北関係に危機が訪れたが、半ばに入ってから南北対話が活発化し始め、経済やスポーツなど多様な分野へと拡大した。

1984年9月18日、韓国の大雨災害を受けて北朝鮮は救護物資の提供を提案し、韓国はこれを受け入れた。分断以来、最初に行われた人道支援に関する合意だった。同年11月の南北経済会談を皮切りに、赤十字会談、国会会談の予備接触、体育会談など、一連の南北会談が開かれた。

1985年5月27日には、第8回南北赤十字会談の本会談が開かれ、分断以来初の離散家族再会に合意した。これにより9月20日から4日間、離散家族故郷訪問団と芸術公演団のソウル・平壤同時交換訪問が行われ、南北の住民の間で交流が実現した。

1980年代、南北は敵対的な関係の中でも対話を続け、それまでに比べて対話のチャンネルを多様化するという成果をあげた。

1990年代

1990年代初め、脱冷戦の流れに支えられ、南北関係は大きな進展を遂げた。1990年9月、分断以来初の首相級会談である南北高位級会談が開かれた。それ以降、8回にわたる南北高位級会談を経て、1992年2月に「南北間の和解と不可侵及び交流協力に関する合意書（南北基本合意書）」が発効した。

南北は、「南北基本合意書」のなかで、7.4南北共同声明の原則を再確認し、互いの体制を尊重することや、停戦状態を平和状態へ転換させるために努力することなどで合意した。また、南北高位級会談では、「和解」、「不可侵」、「交流協力」の3つを柱とする南北基本合意書付属合意書と、「韓半島の非核化に関する共同宣言」を採択した。そして1994年7月、分断以来初の南北首脳会談を開催することで合意したが、金日成（キム・イルソン）主席が突然死亡したため実現しなかった。

平和、
新たな
始まり
2018
南北
首脳
会談

2000年

南北は、2000年6月13日から15日にかけて、平壤で、分断以来初の南北首脳会談を開催した。当時の金大中（キム・デジュン）大統領と金正日（キム・ジョンイル）国防委員長は、離散家族問題の解決に向けた努力や経済・社会・文化交流の拡大などを盛り込んだ「6.15南北共同宣言」に合意した。さらに両首脳は、韓国側の「連合制案」と北朝鮮の「低い段階の連邦制案」の共通点を確認し、これを踏まえて統一についての議論を続けていくことにした。南北がすぐに制度的・法的な統一を推進するのではなく、現体制を認め、平和的に共存しながら、交流協力を通じて段階的に事実上の統一を実現していくことで合意したのである。



2007年

2007年8月8日、南北は同月28日～30日に南北首脳会談を開催すると発表した。しかし、それから10日後、北朝鮮は水害を理由に会談の延期を要請。2回目の南北首脳会談は同年10月2日～4日に平壤で開かれた。

会談において当時の盧武鉉大統領と金正日国防委員長は、停戦体制の終息と恒久的な平和体制の構築の必要性で一致し、関係国3カ国もしくは4カ国の首脳が韓半島地域で会合を開いて終戦宣言することを目指し共に協力することで合意した。また、政治、軍事、経済、社会、文化など様々な分野で共同事業を実施することも発表した。この首脳会談の結果、採択されたのが「南北関係の発展と平和繁栄のための宣言（10.4宣言）」である。「10.4宣言」は、2000年の「6.15南北共同宣言」の合意事項を具体的に履行していく方法を盛り込んだ合意書だった。



年表でみる主な南北対話

付録

1970年代

- 1971. 8. 20 第1回南北赤十字派遣員接触（板門店）
：休戦以来初めての南北当局対話
- 1972. 7. 4 <7.4南北共同声明>発表
：祖国統一の原則（自主・平和・民族的大団結）に合意
- 1972. 8 ～1973. 7 第1～7回南北赤十字会談本会談（ソウル、平壤）
：離散家族問題解決のための最初の南北交渉
- 1972. 10 ～ 1975. 3 南北調節委員会会議（板門店、ソウル、平壤）
：南北関係の進展に向けた最初の当局間常設協議体を構成し、会議を運営

1980年代

- 1984. 9. 18 水害支援物資の提供をめぐる南北赤十字実務接触（板門店）
：分断以来初めての人道支援に合意
- 1984. 11 ～ 1985. 11 第1～5回南北経済会談本会談（板門店）
：分断以来初めて南北経済交流・協力について議論
- 1985. 4～ 5 第1～3回南北体育会談（板門店）
：ロサンゼルス夏季五輪に南北合同チームで出場することや南北体育交流などを協議
- 1985. 5. 27 ～ 30 第8回南北赤十字会談本会談（ソウル）
：分断以来初めての離散家族再会に合意
：離散家族故郷訪問団および芸術公演団がソウル・平壤を同時に交換訪問（1985.9.20～23）

1990年代

- 1990. 9. 4 ～ 7 第1回南北高位級会談本会談（ソウル）
：分断以来初めての南北首相級会談
- 1991. 12. 10 ～ 13 第5回南北高位級会談本会談（ソウル）
：南北間の和解と不可侵および交流・協力に関する合意書（南北基本合意書）」を採択
：7.4南北共同声明で祖国統一の原則を再確認
：南北関係を「国と国の間の関係ではなく、統一を目指す過程で暫定的に形成される特殊関係」として認める
- 1992. 2. 18 ～ 21 第6回南北高位級会談（平壤）
：「南北間の和解と不可侵および交流・協力に関する合意書」と「韓半島の非核化に関する共同宣言」が発効
- 1994. 6. 28 南北首脳会談に向けた副首相級予備接触（板門店）
：金泳三（キム・ヨンサム）大統領と金日成（キム・イルソン）主席による分断以来初めての南北首脳会談（1994.7.25 ～ 27、平壤）の開催で合意
- 1997. 12 ～ 1999. 8 第1～6回4カ国協議（南・北・米・中）本会談（スイス・ジュネーブ）
：休戦以来初の韓半島の平和定着を目指す多国間協議

2000年代

- 2000. 6. 13 ～ 15 1回目の南北首脳会談（平壤）
：分断以来初めての南北首脳会談で、「6.15南北共同宣言」を採択
- 2000. 6 ～ 2010. 10 南北共同宣言の履行に向けた第1～11回南北赤十字会談（金剛山、開城）
：1985年以来約15年ぶりに離散家族再会行事を再開（2000.8、ソウル、平壤）
- 2000. 7 ～ 2008. 2 第1～21回南北閣僚級会談（ソウル、済州、平壤、金剛山）
：第1・2回南北首脳会談における合意内容の履行に関する協議
- 2000. 9. 25 ～ 26 第1回南北国防長官会談（済州島）
：休戦以来初めての南北軍事当局間会談
- 2000. 12 ～ 2007. 4 第1～11回南北経済協力推進委員会（ソウル、済州、平壤、開城）
：南北閣僚級会談における合意内容のうち、経済関連事項の履行について協議
- 2007. 10. 2 ～ 4 2回目の南北首脳会談（平壤）
：南北首脳間の会談の結果、「南北関係の発展と平和繁栄のための宣言」を採択

Q1. 平昌冬季五輪を契機とする南北間の特使相互派遣と 南北首脳会談実現の意義

- 北朝鮮の平昌冬季五輪への参加が実現したほか、南北が相互に特使を送り、米国と北朝鮮の対話の端緒を開き、南北首脳会談の開催合意にこぎつけた。
 - － 金与正党中央委員会第1副部長が金正恩國務委員長の特使として文在寅大統領に金正恩國務委員長からの親書を手渡した（2月10日）。
- 平昌冬季五輪は、平和の五輪としての成功にとどまらず、韓半島の非核化と平和定着に向けた大きな一歩となった。
 - － 南北間の対話に加え、米国の強力な支援により生み出された成果。
 - － 北朝鮮の非核化と米朝関係の正常化につながれば、世界平和の実現に向けた画期的な成果となる。
 - － 韓半島の非核化と平和定着を実現するまでには解決しなければならない問題が多い。米国をはじめとする国際社会と連携し、北朝鮮と対話しながら一歩ずつ、韓半島の平和と繁栄に向けた土台を築いていく必要がある。

Q2. 南北首脳会談に続いて開催される米朝首脳会談が持つ意味は？

- 南北首脳会談に続き、米朝首脳会談が実現すれば、韓半島の完全な非核化が軌道に乗るとみられる。米朝首脳会談は将来、韓半島の平和を成し遂げた歴史的な出来事として記録されるだろう。
- 韓半島非核化と平和定着、南北共同繁栄の道を開くことができる貴重な機会が設けられた。向こう2カ月間に南北首脳会談と米朝首脳会談が開催されれば、重大な変化が期待できる。これらが成功すれば、世界的に劇的な変化が生まれるとみられる。
- 韓半島の非核化と平和構築は、この機会をうまく活かせるかどうかにかかっている。我々がこうした機会を作り出すことができたのは、決して偶然ではなく、それが正しい道だからである。戦争ではなく平和を、軍事的な解決策ではなく外交的な解決策を、全世界が望んでいるからである。

Q3. 南北首脳会談の会場を板門店にすることで合意した背景は？

- 板門店は南北分断および南北間の対立と軍事的対峙の象徴である。
- 会場として板門店を提案したのは韓国側である。
- 金正恩国務委員長の特使として金与正氏が訪韓した際（2月9日～11日）に、北朝鮮は金委員長からのメッセージとして文在寅大統領を平壤に招請。これを受けて、韓国側は、分断と対立の象徴である板門店で平和のための会談を行うことを北朝鮮側に提案した。
- 韓国側の特使団が訪朝した際（3月5日～6日）に金正恩委員長がこれを受け入れ、会談の場所を板門店にすることで合意した。
- 板門店での開催により、会談に付随する様々な行事を省略することが可能となり、両首脳間の協議に集中できる環境が整うとみられる。

Q4. 2018年の南北首脳会談の目標は？

- 今回の首脳会談は、多くの合意を達成するのが目的ではなく、韓半島の非核化と平和定着および南北関係の発展に向けた足がかりを築く場になるとみられる。
- 南北の連絡が長い間中断し、関係が悪化してきたことを考えれば、両首脳が虚心坦懐に対話することにより、信頼を築くことが重要であると考えられる。

Q5. 2018年の南北首脳会談の議題は？

- 今回の首脳会談では、韓半島非核化、韓半島の平和定着、南北関係の発展などに関する包括的な議論が行われるとみられ、具体的な議題の表現については、双方の間で協議中である。

Q6. 南北首脳会談の準備に向けた構想は？

- 両首脳の率直かつ虚心坦懐な対話を通じて理解と信頼を増進できるよう、準備を行う方針である。
- 南北首脳会談準備委員会を中心に関係省庁間の緊密な協議の下、会談の準備に万全を期す方針だ。

Q7. 今回の首脳会談では、「韓半島の非核化」についてどこまで踏み込んだ議論が行われるとみられるか？

- 韓半島非核化において最も重要なのは、南北首脳会談とその後に行われる米朝首脳会談を通じて、実質的な解決の局面に入ることである。
- 南北首脳会談は、米朝首脳会談を前に、南北が非核化に関する立場について虚心坦懐に意見交換し、意見の隔たりを埋めていく場になるとみられる。

Q8. 核問題をめぐる北朝鮮の態度の変化は？

- 以前は非核化問題に言及すると、北朝鮮は強く反発し、話を最後まで聞こうとしなかった。
- 先の南北高位級会談（1月9日）や特使の相互訪問では、韓国側の話を最後まで聞き、自らの核開発の背景などを説明するなど、これまでの態度から一転した。

Q9. 北朝鮮は「対話が続く間、核実験およびミサイル試験発射などの挑発をしない」と表明したが、これは核開発を進めるための時間稼ぎではないのか？

- 北朝鮮の態度の変化を時間稼ぎと断定することは適当ではない。
- 非核化は我々の確実かつ明確な目標であることを前提に、韓国の国益に基づき対処していく。
- ある一つの側面だけを見て、過度に楽観的になったり、互いを無視したりすることなく、あらゆる状況とあらゆる可能性を視野に入れて会談に備えていく。

Q10. 北朝鮮は「核武力の完成」を宣言している。核の凍結と廃棄を受け入れる可能性はないのでは？

- 北朝鮮は昨年、「国家の核武力を完成した」と発表したが、韓国側の特使団が訪朝した際、金正恩委員長は非核化の意志を表明し、そのために米国と対話する用意があると述べた。
- 今後、南北首脳会談をはじめとする北朝鮮との対話のなかで、北朝鮮が非核化の決断を下し、核廃棄が履行されるよう、最善の努力を尽くしていく。

Q11. 今後の北朝鮮の核問題をめぐる交渉における障害は？

- 南北・米朝間の交渉における最大の障害は、信頼不足である。交渉における合意は、相手がそれを履行するという予測が可能でなければ成立しないが、南北・米朝の間にはそのような信頼がまだ築かれていない。
- 今回の南北首脳会談が南北間・米朝間の信頼構築の第一歩になるよう、最善を尽くして準備していく。

Q12. 「韓半島の平和定着」について、具体的にどのようなことが議論されるとみられるか。

- 韓半島非核化と恒久的な平和定着に必要な諸条件について虚心坦懐に議論できることを期待している。
- 南北間の偶発的な軍事衝突の防止や軍事的緊張の緩和、信頼構築に向けた様々な措置が議論されると考えられる。

Q13. 「南北関係の発展」について、具体的にどのようなことが議論されるとみられるか。

- 今回の首脳会談では、韓半島非核化、平和定着、南北関係発展がバランスよく議題として取り上げられる見通しである。
- 南北関係発展については、南北間の対話と交流協力、人道問題などが全般的に議論されるとみられる。

Q14. 南北間の合意を持続させる方法は？

- 南北間の合意が、政権交代などの外部要因の影響を受けることなく一貫して履行されるよう、多角的な方策を検討中である。
- 南北関係の発展に関する法律（第21条第3項）に基づき、重大な財政負担が伴う合意や立法事項に関する合意は、国会で承認を受けたうえで、合意内容が適切に履行されるようにしていく計画である。

Q15. 南北首脳会談開催に短期間で合意したため、実質的な協議になり得ないと懸念する見方もあるが……。

- 事前の準備なく、短期間で電撃的に合意したものではない。
- 政府は、「ベルリン構想」から一貫した対北政策を提示し、北朝鮮に応じるよう求めてきた。北朝鮮も韓国政府の政策に部分的に共感し、南北首脳会談受け入れという形で応じたものと考えられる。
- 4月末の南北首脳会談とその後の米朝首脳会談が、韓半島問題や南北関係において重要な転機になると考えられる。

Q16. 現在の南北関係の中で、「韓半島新経済地図」構想をいかに実現していくのか？

- 国際社会による強力な対北朝鮮制裁が取られている今の状況では、北朝鮮と経済協力事業を行うことには、かなりの制約があるのは事実である。
- それにもかかわらず、平和的な環境を整備していくには、経済的なアプローチが必要であることを念頭に置き、韓半島内で環境を整えていくための「韓半島新経済地図」を推進していかなければならない。
- こうした状況の中で、韓国がまず独自に実施できる事業を検討し、次に核問題解決で実質的な進展があったら北朝鮮との経済協力を開始する構想を立てている。

Q17. 開城（ケソン）工業団地の操業再開など、南北間の経済協力についても議論するのか？

- 南北間の経済協力事業に関する議論は、北朝鮮の核問題解決について実質的な進展があった時に可能となる。
- 北朝鮮が核を放棄すれば明るい未来を共に切り開いていくことができるとの考えのもと、開城工業団地の操業再開について内部で準備を始めているが、本格的な議論をするには、まだ時間が必要である。

Q18. 韓国が交渉で「一括妥結方式」が望ましいとしているのに対し、北朝鮮はかつてのような「段階的解決」を提示している。これにより、今後、北朝鮮の核問題をめぐる交渉が複雑になる可能性は？

- 今後の状況について前もって予測することは適切ではない。
- 今後、南北首脳会談や米朝首脳会談などで、北朝鮮核問題の平和的解決に向けた方策が協議されと考えられる。
※（韓国政府のアプローチは、「包括的」あるいは「一括妥結」といったふうに言い切ることはできないと理解すればいいのか、という質問に対し）そうだ。（3月29日の定例会見における大統領府報道官の発言）

Q19. 先の中朝首脳会談によって、南北首脳会談-米朝首脳会談を通じて北朝鮮の核問題を協議するという韓国政府の戦略は支障をきたすのでは？南北と米国による3力国協議ではなく、6力国協議が再開される可能性は？

- 中国は、先の中朝首脳会談など様々な機会を通じて、南北・米朝首脳会談の成功、さらには北朝鮮を非核化に向けた実質的な対話の場に導き出すための建設的かつ積極的な役割を果たしてきている。
- 韓国政府は、中国側と緊密な協議を続けていく。現時点では、南北・米朝首脳会談の成功に向けた外交努力に注力する方針である。今後、状況が進展した場合は、様々な形の対話が可能と考えている。

Q20. 南北・米朝首脳会談の開催後、 韓国政府の対北朝鮮制裁は勢いを失うのでは？

- 政府は、南北・米朝首脳会談の成功により、非核化および韓半島の平和定着に向けた土台を築くことを目指して努力している。こうしたなか、北朝鮮の非核化において実質的な（substantial）進展がなければ、対北朝鮮制裁が忠実に履行されるよう、引き続き国際社会と緊密に連携していく方針である。

Q21. 今後の「韓半島の平和定着」に関する議論において、 北朝鮮から、韓米同盟の弱体化につながりかねない要求 （米国の戦略資産を韓国に配備しないことや、合同軍事演習 の縮小または中断、在韓米軍の撤退など）があった場合、 どのように対応していくのか？

- 韓米同盟は、韓国の外交・安保政策の根幹をなすものであり、韓半島とアジア太平洋地域の平和と安定のための中核的な軸として同地域の繁栄に貢献してきた。
- 韓米両国は、南北・米朝対話などを通じた韓半島の非核化および平和定着の議論において、強固な連合防衛態勢をもとに緊密に連携していく方針である。

平和、新たな始まり

평화, 새로운 시작

2018南北首脳会談
2018 INTER-KOREAN SUMMIT